

自立支援サービスにおけるコミュニティバスの活用について

川口自由民主党市議団では、政策集「市民（あなた）への約束」の中で障害者支援サービスの充実を約束しています。

脳溢血や脳血栓をはじめとする脳血管障害の多くは後遺障害が残りますが、これらは決して高齢者のみに発生する病気ではなく、社会復帰して働かなくてはならない若年齢の方々も多くいらっしゃいます。

医療機関は、医療費の削減から早期退院を迫る傾向にあります。退院後のリハビリこそが社会復帰への大きなかけ橋となる。本市は公共交通機関が脆弱なためリハビリ病院やリハビリ施設に通院することが困難な状況です。

健常人と違ってバス停に行くまでがとても大変なのですが、毎回タクシーを利用するのも費用負担が大きく、現在のところこういった方々に利用していただけるようなタクシー券などでも制限があるようです。

コミュニティバスがこまめに運行できればよいのですが、デマンドバスのような制度があれば社会復帰のための手助けとなると思います。

介護保険にもあたらない、障害者手帳が交付される以前の方々などの移動支援サービスについて、本市ではどのようにお考えでしょうか。質問します。

高木直人技監兼都市計画部長 御答弁申し上げます。

自立支援サービスにおけるコミュニティバスの活用についてでございますが、議員御指摘のとおりバスをはじめとする公共交通機関の整備は、障害をお持ちの方々や高齢者の方々の社会参加の手助けになるものと考えております。

本市では、総合都市交通体系調査事業の中で、鳩ヶ谷市の循環バスと本市コミュニティバスの再編などについて調査・検討を行うこととしており、その中でバス停までの移動が困難な方々の移動手段の確保策につきましてもあわせて検討して参りたいと存じます。

以上でございます。